

全国青年ボランティアセンター ニュースNO5（宮城版） 5月4日

「ありがとう」「手伝ってくれてよかった」 の声に「明日も全力で頑張りたい」

3日も、仙台市若林区、宮城野区、岩沼市、亶理市で6つのチームに分かれてボランティア活動にとりくみました。この間の活動で住民との連帯、ボランティア活動への確信が広がっています。

○「1週間かかる仕事を手伝ってくれてよかった」——仙台市若林区（宮城・兵庫・大阪）

2日前の聞き取り調査のときに「畑の泥だしをお願いしたい」と要請され、3日に兵庫と大阪のメンバーが作業を行うことに。はじめは「本当に終わるのかな」と不安もあったけれど、この日は7～8割を終わらせることができました。家のおじさんからは「自分1人だったら、1週間はかかる作業だったけれど、みんなが手伝ってくれたからだいぶ終わらせることができよかった」という言葉をかけてもらいました。

若林区ではもう1チーム、庄司あかり共産党仙台市議候補から紹介をうけた民家の床下の泥出し作業をしました。スコップで泥をすくい、バケツに入れて、一輪車で外に出す作業を午前、午後にかけて行いました。

○「自分たちのひとつひとつの作業が復興を支えているんだ」——亶理町（宮城・大阪）

宮城と大阪のメンバーを中心に引き続き亶理町のイチゴ農家のビニルハウス内の泥撤去作業をしました。みんな仕事になれてきましたが、まだまだ、泥はいっぱい。

大阪の参加者は「思うように作業がすすまなくて、途方もない感じがする。でも、自分たちができることを1つひとつやっていくことが大事だと実感した。そういう作業が被災者の方の復興を支えることにつながると思った」と実感を語ります。

○住民の穏やかな声に「明日も全力で頑張りたい」——岩沼市（兵庫）

岩沼市では兵庫のメンバーが2チームに分かれて、この間の聞き取り調査で要請をうけた民家の床下の泥だしとビニルハウスの泥出しのボランティアをしました。床下の泥出し参加したTくんは「台所の下にもぐって泥をかきあつめていたときに、床上の方から家の人から『助かりました』と声をかけてもらった。その声が本当に穏やかで、うれしくなりました。自分は明日までしか活動できないけれど、その声を聞いて明日は全力でとりくもうと思った」と語ります。

○この他にも、宮城野区では共産党から紹介をうけた引っ越し作業のボランティアも行いました。

4日は仙台市若林区、岩沼市、亶理町でボランティア活動をします！